授業科目	基礎看護学Ⅰ Advanced Theoretical Nursing Ⅰ	責任教員 山本　利江	単位数 時間数	2 30	必修・選択 受講セメスター	前期	科目等履修生	否
目的	看護学における対象特性把握の方法論について理解する.							
到達目標	1．看護実践そのものを学的対象としてとらえる場合の研究素材の作成方法を学習する 2．研究素材の構造分析の方法を学習する 3．対象特性把握の方法，研究素材の条件および構造分析の方法を理解する							

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
		講義ならびに文献学習と個別指導，および基礎看護学教育研究分野所属の全教員および研究生との討議をとおして，対象特性把握に必要な理論と専門知識を統合する力を駆使して学習を進める.	山本 河部
1～11回	自己の看護実践から，対象特性把握の方法，研究素材の条件および構造分析の方法を学ぶ	自己の看護実践の中から，自己の問題意識にそって具体的な看護実践を記述した資料を作成する．作成過程で，必要時，助言を受ける. 資料について問題意識が明確であるか，看護学上意味のある問題意識であるか，その看護実践が一義的に再現できるかという観点から吟味し，その後，問題意識にそって構造分析を行う．資料の作成・報告および討議をとおして，看護の視点からの対象特性把握の方法や，看護実践そのものを学的対象としてとらえるための研究素材の条件や，構造分析の方法について理解を深める.	
	他者の看護実践から，対象特性把握の方法，研究素材の条件および構造分析の方法を検討する	学生が提出した事例と対象特性の異なる看護実践事例を，教員および研究生が提出する．討議に際しては，その看護実践に直接関わった事例提供者の出席と，必要に応じての発言を求め，事例への直接的・間接的に関わる立場による対象把握の質的相違へと討議をすすめ，対象特性把握の方法の理解をさらに深める.	
12～15回	既存の研究から，研究素材の作成および構造分析の特徴を検討する	既存の研究論文を学生が随意に選択し，研究素材の作成過程と研究方法に焦点を当てて研究内容について分析した資料を作成する. その論文における特徴と，看護実践そのものを学的対象としてとらえるための研究素材の条件と構造分析の方法に関して理解した内容について発表し，討議を行う.	
	レポート	以上の学習をとおして，看護実践そのものを学的対象としてとらえる研究方法論について，明確になったことと課題をレポートにまとめ，提出する.	

成績評価基準	課題発表および参加状況，ならびにレポートにより評価する
教科書参考書等	薄井坦子：科学的看護論，第３版，日本看護協会出版会，1997 三浦つとむ：弁証法とはどういう科学か，講談社，1968 認識と言語の理論第一部，勁草書房，1967
備考	

授業科目	基礎看護学Ⅱ Advanced Theoretical Nursing Ⅱ	責任教員 山本　利江	単位数 時間数	2 30	必修・選択 受講セメスター	後期	科目等履修生	否
目　的	看護理論の学的分析方法について理解し，看護理論の発達過程と科学史との関連を学習する．							
到達目標	1．看護理論の学的分析方法を学習する 2．看護理論の発達過程を科学史との関連において理解する							

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
		講義ならびに文献学習と個別指導，および基礎看護学教育研究分野所属の全教員および研究生との討議をとおして，看護理論を理解するために必要な学的方法論を意識化しながら学習を進める．	山本 河部
1～12回	看護理論の分析方法を理解する	看護の理論開発に関する諸概念を学び，看護理論書の論理構成の特徴や理論家の経歴・時代背景から，理論開発の過程を分析する方法について理解する．看護理論家の中から1名以上を選択し，上記の方法を活用して理論開発の過程を実際に分析し，そのプロセスおよび成果を記述した資料を作成する． 作成した資料をもとに発表を行い，討議をとおして看護理論の分析方法についての理解を深める．	
	看護諸理論について，それぞれの特徴を理解し，理論の実践への適用と評価について学習する	とりあげられなかった主要な看護理論のうち傾向の異なる複数の看護理論について，教員および研究生による発表に基づき，各々の看護理論の特徴について討議する． 分析対象となった看護理論の実践への適用例をもとに看護理論の実践への適用と評価の方法について学習し，各看護理論の実践への有用性と限界について討議する．	
	看護理論の発達過程を学習する	とりあげられた各看護理論について，理論開発過程の共通性・相異性を比較検討し，それらを年代順に整理した資料の作成および発表を行い，討議をとおして看護理論の発達過程を理解する．	
13～15回	科学史における理論開発の変遷を学び，看護学における看護理論開発を科学史との関連において位置づけ，理解する	看護技術論の基礎となった技術論に関する文献を精読し，理論開発の変遷という観点から科学史を概観する資料を作成する．資料に基づいて，理論開発の普遍性と，学習した看護理論の発達過程について看護学の特殊性をふまえた考察を発表し，それについて討議を行う．	
	レポート	学習した看護理論の位置づけと，今後の理論開発の方向性についてレポートをまとめ提出する．	

成績評価基準	課題発表および参加状況，ならびにレポートにより評価する
教科書参考書等	Marriner-Tomey,A.ed:Nursing Theorists and Their Work,4th ed.,Mosby,1998 武谷三男：弁証法の諸問題，勁草書房，1968　および基礎看護学Ⅰで使用した文献
備　考	

授業科目	看護教育学Ⅰ Advanced Nursing Education Ⅰ	責任教員 舟島なをみ	単位数 時間数	2 30	必修・選択 受講セメスター	前期	科目等履修生	可

目的	看護学教員・専門看護師等の役割を担う看護職者が教育・実践領域において教育的機能を果たすために必要な要件を理解し，あらゆる状況において系統的な教育活動が展開できる能力を習得する.
到達目標	1．教育学の基礎理論を学習し，看護学教員・専門看護師等の役割を担う看護職者が教育的機能を果たすための基盤となる知識を得る. 2．看護教育学の全体構造および看護教育学各論を学習し，看護学教員・専門看護師等の役割を担う看護職者が，教育活動を展開するために必要な基本的知識・技術を習得する. 3．1．2．を前提とし，質の高い看護基礎・卒後・継続教育(スタッフ開発･現任教育を含む),患者教育を展開するために，教育計画の立案，実施，評価，計画の修正の実際を理解する.

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1回	オリエンテーション	●授業の目的・目標，授業展開の理解とグループ編成 各自の関心により次の3グループを編成する. A．看護基礎教育グループ B．看護卒後教育グループ C．看護継続教育（スタッフ開発・現任教育を含む）・患者教育グループ ＊専門看護師認定試験受験を希望する者は，Cグループに所属すること.	舟島 野本
	看護教育学概論	●看護教育学の教育・研究およびその体系化に関する講義・討論	
2～13回	教育学理論の理解	●教育学の基礎理論の理解と看護基礎・卒後・継続教育，患者教育への統合 ①課題図書の精読と批評により，教育学の基礎理論に関する正しい知識を得る. ②教育学の基礎理論に基づき，看護基礎・卒後・継続教育，患者教育を対象の特徴と照合する.(グループ討議) ③②の成果を各教育の目的と特徴・役割，各教育の有機的関連と問題の解決（事例分析を含む）へと統合する. （グループ討議の成果発表と全体討議）	
14～15回	看護教育学の基本的知識と技術の理解	●看護職者が質の高い看護基礎・卒後・継続教育，患者教育を展開するための基本的な知識の理解と活用 ①教育プログラムの編成 ②教育評価 ③教育方法 ④教育と倫理的配慮	
	まとめ	●看護基礎･卒後･継続教育,患者教育の展開に向けて,対象の特徴を反映し,かつニードを充足しうる教育計画の立案,実施,評価,計画の修正の実際について論述する. ①グループ演習と成果の発表 ②問題の共有と解決への方向付け	

成績評価基準	グループワークにおけるプレゼンテーションとその資料，コース終了後のレポート，もしくは筆記試験
教科書参考書等	・杉森みど里・舟島なをみ：看護教育学，第4版，医学書院 ・I.M.キング：キング看護理論，医学書院 ・J.S.ブルーナー：教育の過程，岩波書店 ・B.S.ブルーム他：教育評価法ハンドブック，第一法規 ・G.トレス他：看護教育カリキュラムーその作成過程ー，医学書院 ・N.I.ホイットマン他：ナースのための患者教育と健康教育，医学書院 ・舟島なをみ監修：看護実践・教育のための測定用具ファイルー開発過程から活用の実践まで，医学書院
備考	専門看護師認定試験受験を希望する者は履修すること. 看護教育学Ⅱを継続して受講することにより，高いレベルの学習への統合をめざすことが可能である.

授業科目	看護教育学Ⅱ Advanced Nursing Education Ⅱ	責任教員 舟島なをみ	単位数 時間数	2 30	必修・選択 受講セメスター	後期	科目等履修生	可

目的	教育学及び看護学理論を適用して統合カリキュラムを編成し，その内容に関する模擬授業を展開することを通して，看護学教育における統合カリキュラム編成・運用の実際と看護学教育活動の展開を理解する．
到達目標	1．看護学教育における総合カリキュラム編成の実際を体験し，看護基礎・卒後・継続教育を展開するために必要な基本的知識を獲得する． 2．「看護学教育授業展開論」及び教育学理論を活用して模擬授業を展開し，看護職者の能力の向上を目指す指導のあり方を論述する． 3．1．2．に基づき，看護基礎・卒後・継続教育における教育活動の展開及びカリキュラム編成・運用の方法を説明する．

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1回	課題と目標の理解	・オリエンテーション（課題図書の紹介，グループ編成，目標の提示）	舟島 野本
2～4回	統合カリキュラム編成の実際：方向付け段階の理解	・課題図書を主要な参考書とし，看護基礎・卒後・継続教育における統合カリキュラムの編成に関わる基本的知識を活用し，グループワークを通して，仮設看護系大学の設置計画，院内教育あるいは患者教育プログラムを作成・立案する．	
5回	プレゼンテーション1	・作成した仮設看護系大学の設置計画，院内教育・患者教育プログラムを発表し，それらの意義及び必要性について議論する．	
6～8回	統合カリキュラム編成の実際：方向付け段階資料の作成	・仮設看護系大学の設置計画，院内教育・患者教育プログラムに基づき，グループワークを通して教育目的・目標の作成，カリキュラムの理論的枠組みを作成する．	
9～10回	統合カリキュラム編成の実際：形成段階の理解	・仮設看護系大学の設置計画，院内教育・患者教育プログラムに基づき，グループワークを通して統合カリキュラムを編成する．	
11回	プレゼンテーション2	・編成した統合カリキュラムを発表し，その有用性と問題点，今後検討が必要な課題について議論する．	
12～13回	統合カリキュラム編成の実際：実施段階の理解	・「看護学教育授業展開論」及び教育学理論を適用し，実際の授業展開に必要となる基礎的知識を活用して授業の準備を体験する．	
14回	模擬授業の展開	・編成した統合カリキュラムに基づき，そのカリキュラムを構成する1つの教育内容を取り上げ，15分間の模擬授業を展開する．	
15回	まとめ	・第1回から第14回の授業を通して，看護基礎・卒後・継続教育における教育活動の展開とカリキュラム編成・運用の方法についてを理解した内容をまとめる．	

成績評価基準	次のレポートを提出する．①グループワークにおける統合カリキュラムの編成資料，②展開された模擬授業の実施計画，③授業を通して学習した内容をまとめたレポート
教科書参考書等	・杉森みど里・舟島なをみ：看護教育学，第4版，医学書院 ・J.S.ブルーナー：教育の過程，岩波書店 ・B.S.ブルーム他：教育評価法ハンドブック，第一法規 ・G.トレス他：看護教育カリキュラム－その作成過程－，医学書院
備考	主に，課題図書および関連文献についてグループディスカッションすることを通して学習を進める． 学生が主体となってグループ学習を展開する． 看護教育学Ⅰに引き続いて受講することにより，学習の高い統合レベルを目指すことが可能である．

授業科目	機能・代謝学Ⅰ Advanced Anatomicophysiology and Biochemistry Ⅰ	責任教員 山田　重行	単位数	2	必修・選択		科目等履修生	可
			時間数	30	受講セメスター	前期		
目的	看護に関連する応用レベルの機能・代謝学を学ぶ.							
到達目標	看護現場の諸問題を，機能・代謝学的視点から考察し，対処できるようにする.							

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
	時間生物学と看護	生体リズムが関与する諸事象（体内時計，子供と老人の概日リズム，睡眠，性周期，ホルモン分泌，季節変化と心の病気，時差ボケ，交代勤務，時間薬理学，他）に関する文献を題材とした学習.	山田
	人間の老化	脳，骨，感覚の老化のメカニズムおよび老化現象へのDNA，タンパク質，酸素遊離基の働きに関する文献の輪読.	山田
	グルコースとAging	グルコースは生存に必須の物質ではあるが，長年月をかけてタンパク質の構造や機能を変化させ（終末糖化産物（AGEs）の形成），細胞･組織を老化させる．この現象のメカニズムと関連疾患に関する文献の輪読.	山田
	微小循環と看護の接点	看護実践を微小循環の観点から捉え直すための基礎的事項（虚血再灌流障害の病理，微小循環網の構造と血流調整，微小血管の血行力学とレオロジー，他）の学習．必要に応じてデモンストレーションを行う.	山田
	肥満と脂肪細胞	成人病の主要な危険因子である肥満について，脂肪細胞の視点から最新知見をもとに講義する.	山田
	高次脳機能	ヒトの高等な精神機能である認知，言語，記憶や学習などに関連した連合野の形態および機能について学習する．また，その領域の障害（高次脳機能障害）に対する看護援助についても考察する.	田中
	感情と行動の脳システム形態機能学	感情や行動など脳がもたらす種々のはたらきの脳内プロセスをそれに関連する解剖学的構造，神経生理学的機序，および脳内物質（神経伝達物質，細胞膜受容体など）の視点から学習する.	山田
	睡眠研究の新しい方法と成果	睡眠を客観的に記述するための科学的手段および脳による睡眠行動調節の細胞機構と分子機構について学習する.	山田

成績評価基準	授業の出席・発言状況，レポートを統合して評価する.
教科書参考書等	HANDBOOK OF PHYSIOLOGY SectionⅡ: Ageing(Edited by Edward J.Masoro,1995),Ischaemia-Reperfusion Injury(Edited by Pierce A.Grace,Robert T.Mathie,1999),Cell Communication in Health and Disease(Edited by Howard Rasmussen,1991),Cognitive Neuroscience of Emotion(Edited by Richard D.Lane,2000),Sleep(by J.Allan Hobson,1995),他
備考	学習課題は希望の多いものを優先して取り上げる.

授業科目	機能・代謝学Ⅱ Advanced Anatomicophysiology and Biochemistry Ⅱ	責任教員 山田　重行	単位数 時間数	2 30	必修・選択 受講セメスター	後期	科目等履修生	可
目的	看護に関連する応用レベルの機能・代謝学を学ぶ.							
到達目標	看護現場の諸問題を，機能・代謝学的視点から考察し，対処できるようにする.							

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
	時間生物学と看護	生体リズムが関与する諸現象（体内時計，子供と老人の概日リズム，睡眠，性周期，ホルモン分泌，季節変化と心の病気，時差ボケ，交代勤務，時間薬理学，他）に関する文献を題材とした学習.	山田
	人間の老化	脳，骨，感覚の老化のメカニズムおよび老化現象へのDNA，タンパク質，酸素遊離基の働きに関する英語文献の輪読.	山田
	グルコースとAging	グルコースは生存に必須の物質ではあるが，長年月をかけてタンパク質の構造や機能を変化させ，細胞・組織を老化させる．この現象のメカニズムに関する英語文献の輪読.	山田
	微小循環と看護の接点	看護実践を微小循環の観点から捉え直すための基礎的事項（虚血再灌流障害の病理，微小循環網の構造と血流調整，微小血管の血行力学とレオロジー，他）の学習，必要に応じてデモンストレーションを行う.	山田
	肥満と脂肪細胞	成人病の主要な危険因子である肥満について，脂肪細胞の視点から最新知見をもとに講義する.	山田
	高次脳機能	ヒトの高等な精神機能である認知，言語，記憶や学習などに関連した連合野の形態および機能について学習する．また，その領域の障害（高次脳機能障害）に対する看護援助についても考察する.	田中
	感情と行動の脳システム形態機能学	感情や行動など脳がもたらす種々のはたらきの脳内プロセスをそれに関連する解剖学的構造，神経生理学的機序，および脳内物質（神経伝達物質，細胞膜受容体など）の視点から学習する.	山田
	睡眠研究の新しい方法と成果	睡眠を客観的に記述するための科学的手段および脳による睡眠行動調節の細胞機構と分子機構について学習する.	山田

成績評価基準	授業の出席・発言状況・レポートを総合して評価する.
教科書参考書等	HANDBOOK OF PHYSIOLOGY SectionⅡ: Aging(Edited by Edward J.Masoro,1995),Ischaemia-Reperfusion Injury(Edited by Pierce A.Grace,Robert T.Mathie,1999),Cell Communication in Health and Disease(Edited by Howard Rasmussen,1991),Cognitive Neuroscience of Emotion(Edited by Richard D.Lane,2000),Sleep(by J.Allan Hobson,1995),他
備考	学習課題は希望の多いものを優先して取り上げる.

授業科目	病態学Ⅰ Advanced Pathobiology Ⅰ	責任教員	単位数	2	必修・選択		科目等履修生	否
			時間数	30	受講セメスター	前期		
目的	感染症成立のメカニズムの理解を深めることにより，感染症患者のケアや，微生物汚染物の処理や管理についての基礎を学ぶ，特に，微生物が侵入してから，感染が成立するまでの過程を学ぶ.							
到達目標								

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1回	ガイダンス	前期（病態学Ⅰ），後期（病態学Ⅱ）の内容説明 感染症成立の概論	岡田
2～4回	微生物と生体表面の関係	微生物の生体への侵入に関わる因子や生体の部位による侵入防御機構，その破綻などによる微生物と生体の関連について	
5～6回	上皮内の微生物	上皮内への侵入直後の微生物の働きと感染症成立について	
7～9回	食細胞と微生物の関連	生体内に侵入した微生物に対する防御機構の一つとしての食細胞の働きについて	
10～15回	微生物の生体内での拡散	生体の構造を利用した微生物の拡散の機構と標的細胞への到達と感染成立について	

成績評価基準	毎回の討論より.
教科書参考書等	Mims' Pathogenesis of Infestious Disease.5th edition
備考	欧文のテキストやプリントを用いるが，Ciscussion中心にします. 生理学，生化学，微生物学，免疫学，病理学の基礎知識.

授業科目	病態学Ⅱ Advanced Pathobiology Ⅱ	責任教員	単位数	2	必修・選択		科目等履修生	可
		未定	時間数	30	受講セメスター	後期		

目的	感染症成立のメカニズムの理解を深めることにより，感染症患者のケアや，微生物汚染物の処理や管理についての基礎を学ぶ．特に，感染が成立してから，宿主がどのような免疫応答を示し，微生物が，これにどう対抗するかを学ぶ．
到達目標	微生物に対する防御機構（獲得免疫）について，細胞レベルで論述できる． 感染症の病態について，細胞レベルで論述でき，人間におこっている現象と関連づけることができる．

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1～5回	感染症に対する免疫機構	細菌，ウイルスに対する免疫機構の働きの違い．	岡田
6～10回	微生物の免疫機構に対する挑戦	微生物の生き残りをかけた不思議な逃亡策，あるいは激しい挑戦について．	
11～13回	感染による細胞傷害	細胞傷害のメカニズムと持続感染キャリアーについて．	
14～15回	感染症からの脱出	免疫機構の働きや機械的排除などの因子と回復との関連，免疫の獲得や再感染の在り方について．	

成績評価基準	毎回の討論より．
教科書参考書等	Mims' Pathogenesis of Infestious Disease.5th edition
備考	欧文のテキストやプリントを用いるが，Ciscussion中心にします． 生理学，生化学，微生物学，免疫学，病理学の基礎知識．

授業科目	母性看護学Ⅰ Advanced Maternity Nursing Ⅰ	責任教員 森　恵美	単位数 時間数	2 30	必修・選択 受講セメスター	前期	科目等履修生	可

目的	すべてのライフステージにある女性のReproductive Healthの状態を適切に診断し，対象者の生活や健康問題への反応を的確に把握するために必要な理論と知識を学習し，本看護領域における理論や研究成果の活用方法を理解する.
到達目標	1．母性看護の対象者及び家族を適切に把握するための理論を学ぶ. 2．思春期，成熟期，更年期にある女性のReproductiv Healthに影響する諸因子について理解し，対象者の健康問題や生活の特徴をアセスメントする知識を修得する. 3．母性看護の必要な対象者について理論的根拠に基づいた高度な看護実践を行うための知識を学び，個別性に応じた看護方法，今後の研究課題について考察することができる. 4．女性，妊産褥婦・新生児並びにその家族を中心とした母子ヘルスケアシステムの実態と課題について理解することができる.

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1回	母性看護に関連する理論や研究成果の適用	母性看護において適用されている代表的な理論や研究成果を適用する意義を理解し，本授業における各自の学習目的・学習目標を明確にする.	森 石井
2回	出生前診断・ケアと倫理的問題	文献，ケア提供者・受益者の意見，法制度等をとおして，妊婦に対して行われている超音波診断の方法とその限界を知り，それに付随する倫理的問題を考察し，出生前診断を受ける対象者のアセスメントやケアの方向性を検討する.	
3～4回	母親役割理論の母性看護への適用	主要な母親役割理論や原著論文を検討することを通して，母親役割獲得過程や母親としてのアイデンティティをアセスメントする視点や対象把握について理解を深める.	
5～6回	疼痛コントロール理論，ストレス・コーピング理論等の母性看護への適用	産婦（胎児も含む）の健康状態を診断する際に重要な理論（疼痛コントロール理論，胎児モニタリング診断に関する知識等）について，文献，あるいはその分野の専門家からの情報提供や事例検討をとおして学び，母性看護や助産診断の視点から検討する.	
7回	胎児・新生児のアセスメント	胎児・新生児の発達・成長と系統的アセスメント方法を学習する.	
8回	家族システム理論，家族ストレス対処理論と母性看護	家族システム理論，家族ストレス対処理論などを学び，育児期にある家族のアセスメント方法を学習する.	
9回	各期の女性のライフスタイルと健康問題	生物学的性差だけでなくジェンダーの視点から，各期の女性のライフスタイルと健康問題の関係を理解し，ヘルスアセスメント方法を学ぶ.	
10～14回	リプロダクティブ・ヘルス／ライツの概念と母性看護 ①Reproductive Health/Rights ②避妊法と避妊指導 ③性感染症と予防 ④不妊症とART ⑤人工妊娠中絶と看護	ヘルスケア提供者・受益者の意見，法制度，文献等をとおして，リプロダクティブ・ヘルス／ライツの概念等を理解する. 受胎調整法・不妊治療等に付随する倫理的問題や看護上の問題を考察し，この領域における女性と家族のアセスメントやケアの方向性，ヘルスケアシステムの構築について検討する.	
15回	母子保健医療福祉制度，生涯にわたる女性の健康づくりに関する政策，関連法規	日本の母子や女性の健康生活を支えるヘルスケアシステムの成り立ちについて文献より理解し，保健統計資料の分析や諸外国との比較により，今後のヘルスケアシステムのあり方を討議する.	

成績評価基準	授業時に提出された資料，授業への出席態度，課題レポートを総合して評価する.
教科書参考書等	参考文献　Fawcett,J.,Downs,F.S.:The Relationship of Theory and Research(2nd ed.),F.A.Davis Co.,1992 Mercer,R.T.:Becoming a Mother,Springer Publishing Co.,1995 Thompson,J.E.et,al:Educating Advanced Practice Nurses and Midwives from Practice to Teaching,Springer Publishing Co.,2001 その他，授業の都度，紹介する.
備考	

授業科目	母性看護学Ⅱ Advanced Maternity Nursing Ⅱ	責任教員 森　恵美	単位数	2	必修・選択		科目等履修生	可
			時間数	30	受講セメスター	後期		

目的	思春期，成熟期，更年期にある女性を対象に，母性としての健康生活に影響する諸因子について理解し，次代の健全育成のために必要な看護の主要な問題について看護方法を検討し，この領域における研究課題を考察する．
到達目標	1．思春期，成熟期，更年期にある女性及び家族を適切に把握するための理論を学び，母性看護のあり方を考察することができる． 2．理論的根拠に基づいた看護実践を行うための知識を学び，看護方法，今後の研究課題について考察することができる． 3．女性並びにその家族を中心としたヘルスケアシステムを構築し，運営・実践するために必要な知識として，女性の健康生活を支える医療保健福祉制度・政策・他の専門職種等との連携システム等を理解することができる．

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1回	女性のライフサイクルと母性看護に関連する理論	女性のライフサイクルの特殊性を理解した上で，健康生活に関わる理論を看護実践や研究に適用する意義を理解し，本授業における各自の学習目的，学習目標を明確にする．	森 石井
2～5回	ヘルスプロモーション理論と母性看護への適用	ヘルスプロモーションについて文献を通して理解を深める．ヘルスプロモーションの概念を用いた研究論文より，理論の適用方法や，女性の健康生活に関する看護の方向性及びその効果の検証方法や研究成果の適用について討議する．さらに，ヘルスプロモーションに関連する学生自身の看護経験を資料として提示し，対象者をアセスメントする視点や看護援助のあり方，ヘルスケアシステムの構築について討議を重ね理解を深める．	
6～14回	リプロダクティブ・ヘルスの概念と母性看護	文献，ヘルスケア提供者・受益者の意見，法制度等をとおして，リプロダクティブ・ヘルスの概念等を理解し，受胎調整法・不妊治療に付随する倫理的問題や看護問題を考察し，この領域における女性と家族のアセスメントやケアの方向性，ヘルスケアシステムの構築について検討する．不妊女性に関する研究論文より，理論の適用や看護方法と今後の研究課題を検討する．	

成績評価基準	授業時に提出された資料，授業への出席態度，課題レポートを総合して評価する．
教科書参考書等	参考文献　Fawcett, J., Downs, F. S. :The Relationship of Theory and Research(2nd ed.), F. A. Davis Co., 1992 Pender,N.J.:Health Promotion in Nursing Practice(3rd.ed.),Applenton&Lange,1996 その他，授業の都度，紹介する．
備考	

授業科目	小児看護学Ⅰ Advanced Child Nursing Ⅰ	責任教員 中村　伸枝	単位数 時間数	2 30－45	必修・選択 受講セメスター		科目等履修生	可
目的	・成長発達理論や家族理論，セルフケア理論，コーピング理論等，小児看護の基盤を成す理論について理解を深める．							
到達目標	・小児の成長・発達，健康状態を専門的方法を用い，独自に判断できる． ・小児やその家族の生活状況，セルフケア能力を判断できる．							

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1回	授業内容のオリエンテーション	・小児看護における理論の位置づけについて理解する．	中村 荒木
2回	小児看護の専門性について学ぶ	・看護の専門性について書かれた文献を基に，小児看護の専門性を，自身の看護実践体験と照合させながら提示し，討議を通して理解を深める．	
3～6回	家族理論について学び小児看護における家族中心の看護のあり方を考える	・代表的な家族理論について，文献を通して理解を深める． ・家族の状態や，家族に対する看護援助の効果を包括的に査定するための方略について理解を深める． ・家族援助に関連する自身の看護実戦経験を提示し，家族を中心とした看護援助のあり方について，討議を通して理解を深める．	
7～11回	成長発達理論について学び小児看護における成長発達の評価方法を学ぶ	・新生児期から思春期にわたる成長発達に関する代表的な理論について文献を通して理解を深める． ・小児の成長発達評価やフィジカルアセスメントについて学び小児の成長発達や健康状態を包括的に査定するための方略について理解を深める．	
12～15回	小児と家族のセルフケア理論やコーピング理論の看護実践への適用方法について学ぶ	・小児とその家族のセルフケアやコーピング等に関する理論について文献を通して理解を深める． ・自身の看護実践経験と文献学習を照合させながら提示し，討議を通して理解を深める．	
	CNSを希望する学生については以下の学習課題を行う（15時間）	・健康上の問題をもつ小児について，成長発達・健康状態の評価を行い，専門看護師としての援助のありかたを考察する．具体的なケースについて評価を行い，援助指針を作成する．	

成績評価基準	授業の際に提示された資料，参加状況，及びレポートにより評価を行う．
教科書参考書等	■Wong,D.L.:Nursing Care of Infants and Children(6th ed.),Mosby,1999 ■Potts,N.L.,Mandleco,B.L.:Pediatric Nursing Caring for Children and Their Families,Dalmar,2002 その他，授業の都度，紹介する．
備考	

授業科目	小児看護学Ⅱ Advanced Child Nursing Ⅱ	責任教員 中村　伸枝	単位数 時間数	2 30－45	必修・選択 受講セメスター		科目等履修生	可

目的	・小児看護の実践を支える主要な理論について論述する. ・小児看護における主要な問題について，子どもと家族に対する援助方法及び研究方法について理解を深める.
到達目標	・専門的方法を用い，小児やその家族の必要としている看護について，独自に判断できる. ・小児看護領域における倫理的判断や他領域との調整方法について学び，複雑な問題をもつ小児やその家族に対する看護について，独自に判断できる.

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1～2回	小児看護領域における倫理問題について学ぶ	・小児看護領域における倫理的問題について，文献を基に理解を深める. ・倫理的判断が必要であった自らの看護実践体験を分析し倫理的判断の際に必要なことや，判断の評価について討議を通して理解を深める.	中村 荒木
3～4回	小児看護領域におけるソーシャルサポートについて学ぶ	・小児看護領域におけるソーシャルサポートについて，文献を基に理解を深める. ・ソーシャルサポートに関する関連文献を読み，看護援助方法や研究方法について，分析的に評価を行う.	
5～6回	小児の保健，医療環境，制度について学ぶ	・小児を取り巻く社会福祉制度の状況について学び，小児看護を実践する際に関係する制度・施策などについて理解を深める.	
7～8回	急性期や周手術期にある小児と家族への看護援助について学ぶ	・関連論文および自らの看護実践に基づき，急性期や周手術期の小児と家族についての看護問題，看護援助方法，研究方法について考察する.	
9～12回	慢性状態にある小児と家族への看護援助について学ぶ	・関連論文および自らの看護実践に基づき，慢性疾患特有の健康問題や，小児の成長発達，慢性疾患を持つ家族に視点をあて，看護援助方法や研究方法について考察する.	
13～14回	小児看護領域におけるヘルスプロモーションについて学ぶ	・小児看護領域におけるヘルスプロモーションについて，文献を基に理解を深める. ・ヘルスプロモーションに関する関連文献を読み，看護援助方法や研究方法について，分析的に評価を行う.	
15回	小児看護領域における看護研究について学ぶ	・小児看護に関する看護および関連領域の研究の動向について検索し，理解を深める.	
	CNSを希望する学生については以下の学習課題を行う（15時間）	・健康上の問題をもつ小児と家族をとりまく環境について，医療および社会福祉・教育の観点から，専門看護師としての援助のありかたを考察する. 文献レビューおよびフィールド演習を通しレポートを作成する.	

成績評価基準	授業の際に提示された資料，参加状況，及びレポートにより評価を行う.
教科書参考書等	■Wong,D.L.:Nursing Care of Infants and Children(6th ed.),Mosby,1999 ■Potts,N.L.,Mandleco,B.L.:Pediatric Nursing Caring for Children and Their Families,Delmar,2002 その他，授業の都度，紹介する.
備考	

授業科目	成人看護学Ⅰ Advanced Adult Nursing Ⅰ	責任教員 眞嶋　朋子	単位数 時間数	2 30	必修・選択 受講セメスター	前期	科目等履修生	可
目的	癌疾患並びに他疾患のacute,critical,chronic,terminal stageにある成人・老人患者及び家族に対する看護および研究の方法について探求し明確にする.							
到達目標	1．癌疾患並びに他疾患のacute, critical, chronic, terminal stageにある成人・老人患者及び家族に対する看護の方法について説明できる. 2．癌疾患並びに他疾患のacute, critical, chronic, terminal stageにある成人・老人患者及び家族に対する研究方法について説明できる.							

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1～15回	①癌疾患のacute,critical, chronic,terminal stageにおける成人・老人患者とその家族に対する最新の看護及び研究について追求し，明確にする. ②癌以外の疾患のacute, critical,chronic,terminal stageにおける成人・老人患者とその家族に対する最新の看護及び研究について追求し，明確にする.	授業は，学習課題の①および②について最新の海外看護学研究論文を用い，ゼミ形式で行う．自分の課題を定め，個別に指導を受け準備を進める. 1．発表及び発表担当者の役割 1）文献は英米看護研究論文で，原則として最新の雑誌掲載から選択する. 2）文献の日本語全訳を行い，発表日前々週の水曜日までに教員に提出する. 3）論文内容の解説資料を作成し，当日資料とする. 4）解説資料は，研究内容を構造的に把握し，より理解を深めるための資料とするもので，できるだけ簡潔な文章と図式を工夫して作成する．学術用語，専門用語等は，必要に応じ日本語版資料を加える. 5）発表は，論文内容を資料に基づき解説し，主題について論ずる. 6）文献は人数分（第２研究室分の１部を含む）コピーし，１週間前までに全員に配布する. 2．ゼミ参加者の役割 1）発表担当者以外の者は，必ず事前に文献を読み，討議の準備をする. 2）発表に対する質問及び意見交換を積極的に行い，効果的なゼミ展開に参画する. 3．担当者のゼミの進め方 1）ゼミ担当者は，発表した文献を基に参加者として次週ゼミの討議課題を決め，全員が課題を分担して資料を作成し，発表者となるよう計画する. 2）担当者は文献資料に基づく発表を統括し，全員参加の討議の司会をし，まとめる. 3）資料は，英文日本文にかかわらず，出典をあきらかにする.	眞嶋 佐藤(ま)

成績評価基準	ゼミ担当作成資料，レポート，討議への参加度
教科書参考書等	
備考	・がん看護専門看護師認定試験受験を希望するものは，学習課題の①について修めること.

授業科目	成人看護学Ⅱ Advanced Adult Nursing Ⅱ	責任教員 眞嶋　朋子	単位数 時間数	2 30	必修・選択 受講セメスター	前期・集中	科目等履修生	可

目　的	癌疾患あるいは予後不良や死にゆくことの宣告に伴って危機的状況に陥る成人・老人患者及び家族に対して有効な看護実践を行うための諸理論と看護介入モデルについて考究する.
到達目標	1．癌疾患等に伴い危機的状況に陥る患者及び家族に適用される危機理論ならびにコーピング理論の背景と概念について説明できる. 2．癌疾患等に伴い危機的状況に陥る患者及び家族に適用される危機介入モデルについて説明できる. 3．危機介入モデルをがん看護事例に適用する方法を説明できる. 4．危機介入モデルを用いてがん看護事例を分析し，理論に基づく介入のしかたを説明できる.

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1～4回	1．癌罹患や癌治療に伴う喪失や危機的状況に直面する患者及び家族に適用される喪失と危機理論の背景及び概念について考究する.	授業は，指定文献喪失と危機理論，コーピング理論に関連するがん看護・クリティカルケア文献）に基づく課題についてゼミ形式で行う. ・事前学習は，個々に文献学習を行うと同時に，複数人によって課題に対する論議を行い，ゼミにおいて検討する問題を明確にする. ・ゼミ授業は，課題の解説と問題に対する討議を行う. ・事例分析は，個々に看護介入モデルのがん看護実践事例への適用を実際に行い，成果を発表し，理論に基づく介入の仕方を討議する. ・諸理論と介入モデルの今後の活用についての自己の課題を明確にする.	眞嶋 佐藤(ま)
5回	2．適用されるコーピング理論について理解を深める.		
6～10回	3．種々の危機介入モデルを検討し理解を深める.		
11～15回	4．危機介入モデルをがん看護事例に適用する方法を修得する. 5．事例分析の結果を評価する.		

成績評価基準	作成資料並びにゼミ参加状況
教科書参考書等	集中ゼミガイダンスとして別に行い，指定文献を提示する.
備　考	がん看護専門看護師認定試験受験を希望する者は，がん看護を課題とすること.

授業科目	老人看護学Ⅰ Advanced Gerontological Nursing Ⅰ	責任教員 正木　治恵	単位数 時間数	2 30	必修・選択 受講セメスター	前期	科目等履修生	可
目　的	老人に関わる高度な看護実践ならびに，その研究のために必要な基礎知識を学習し，理解を深める．							
到達目標	1．老人ケアの健康生活と，ケア活動のためのアセスメント方法について学習し，課題を明らかにする． 2．老人ケアに関する政策について現状を調べ，今後の課題を明らかにする．							

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1～8回	1．老人の健康生活と，ケア活動のためのアセスメント方法	学習内容： 1．心身の老化過程と健康生活にもたらす影響に関する理論，ならびに健康生活アセスメント方法について学習し，老人へのケア活動に適用する際の問題点について考察する．	正木 谷本
9～15回	2．老人ケアに関する政策	2．老人ケアに関する政策の発展過程ならびに現状を調べ，現在の問題を検討する． 方法： 学習課題1，2とも，講義ならびに文献学習，グループディスカッションにより，既存の知識を統合し，考察する．	

成績評価基準	参加状況とレポートにより評価する．
教科書参考書等	
備　考	老人看護学ⅠとⅡを併せて履修することが望ましい．

授業科目	老人看護学Ⅱ Advanced Gerontological Nursing Ⅱ	責任教員 正木　治恵	単位数 時間数	2 30	必修・選択 受講セメスター	前期	科目等履修生	可
目　的	老人看護または慢性病看護に関する理論及び研究方法について学習する.							
到達目標	老人看護または慢性病看護に関する理論ならびに研究方法について学習し，実践の場への適用方法と課題を明らかにする.							

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
		方法： 関心領域により学生自身が学習課題ＡまたはＢを選択する. 学習課題にそって，講義，文献学習，グループディスカッションを通して理解を深める.	正木 谷本
1～8回	A．様々な状態にある老人に必要な看護に関する理論と研究方法	学習内容： ①老人と家族のケアに関する理論と研究方法の検討 ②老人への専門的な看護援助の理論開発，ならびに老人の健康生活を支援するシステムの現状と課題についての検討	
9～15回	B．慢性病をもつ成人･老人に必要なセルフケアへの援助方法に関する理論と研究方法	学習内容： ①慢性病者の療養行動に関する理論と実際 ②慢性病者のセルフケアの発展過程と看護援助に関する理論と実際 ③慢性病者とその家族のケアに関する理論と研究方法の検討	

成績評価基準	参加状況ならびにレポートにより評価する.
教科書参考書等	
備　考	老人看護学ⅠとⅡを併せて履修することが望ましい.

授業科目	精神看護学Ⅰ Advanced Psychiatric and Mental Health Nursing Ⅰ	責任教員 岩﨑　弥生	単位数	2	必修・選択		科目等履修生	可
			時間数	30	受講セメスター	前期		
目的	精神看護領域における研究の基礎的能力を養う.							
到達目標	精神看護に関連させながら研究過程を概観し，研究結果の精神看護実践への適用について論述する.							

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1～2回	精神看護学と研究 実践・研究・理論の関係 概念枠組	課題の遂行とプレゼンテーション，及びグループディスカッションを通して，精神看護学における研究－実践－理論の関連について理解し，自己の研究課題を見出す.	岩﨑 石川
3～5回	概念分析 概念分析の目的 属性 モデルケース コントラリーケース 先行要件 結果 操作的定義	精神看護と密接にかかわる概念を選び，概念分析をする.	
6～12回	研究過程 研究目的 研究枠組，目的，仮説 デザイン 測定具 対象への倫理的配慮 データ分析 研究の信頼性と妥当性	精神看護領域における研究論文をもとに研究過程を概観し，精神看護学研究の動向と課題を把握する.	
13～15回	研究論文のクリティークと研究結果の解釈 量的研究 質的研究	精神看護領域における研究論文を批判的に読み，その研究結果の実践への適用について論述する.	

成績評価基準	プレゼンテーション及びその資料による
教科書参考書等	Burns, N & Grove, SK (2004) The practice of nursing research:Concept,critique and utilization. W.B.Saunders. Walker, LO & Avant, KC (2004) Strategies for theory construction in nursing. Prentice Hall. 箕浦康子（1999）フィールドワークの技法と実際：マイクロ・エスノグラフィー入門．ミネルヴァ書房. 桜井厚（2002）インタビューの社会学：ライフストーリーの聞き方．せりか書房.
備考	

授業科目	精神看護学Ⅱ Advanced Psychiatric and Mental Health Nursing Ⅱ	責任教員 岩﨑　弥生	単位数 時間数	2 30	必修・選択 受講セメスター	後期	科目等履修生	可
目　的	精神看護学と関連の深い諸理論を精神看護実践に活用する基盤を作る.							
到達目標	1）精神看護領域で用いられている諸理論を実践への適用の観点から論述する. 2）面接技法とその理論的背景を論述する.							

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1～8回	精神看護学で用いられる諸理論および精神看護援助技術 看護の諸理論 グループ理論 家族理論 代替療法（リラクセーション，マッサージ，回想法，ムーブメントセラピーなど）	課題の遂行とプレゼンテーション，グループディスカッションなどを通じて，精神看護領域で用いられている諸理論および精神看護援助技術への理解を深め，実践への適用を論述する.	岩﨑 石川
9～15回	対人援助技術 対人援助の諸理論 援助の枠組み 援助関係の発展過程 援助者に生じやすい問題	課題の遂行とプレゼンテーション，ビデオ学習，ロールプレイ，グループディスカッションなどを通して，対人援助技術について理論的な観点から理解を深めるとともに，理論を用いて自身の精神看護実践を分析し，自身の援助者としての心の動きや援助技術について評価する．また，グループディスカッションを通して学習を深化させ，援助者としての力量を高める.	

成績評価基準	プレゼンテーション及びその資料による
教科書参考書等	Meleis, A（2006）Theoretical Nursing: Development and Progress. Lippincott. Snyder, M & Lindquist, R（2002）Complementary/Alternative Therapies in Nursing. Springer. 福田俊一，増井昌美（1998）家族の心理療法．朱鷺書房. 近藤喬一，鈴木純一編（1999）集団精神療法ハンドブック．金剛出版. 土居健郎（1992）方法としての面接：臨床家のために．医学書院. 河合隼雄（1995）カウンセリングの実際問題．誠信書房. 大場登（2002）臨床心理面接特論．日本放送出版協会. 神田橋條治（1990）精神療法面接のコツ．岩崎学術出版. Ａグッゲンビュール・クレイグ（1981）心理療法の光と影：援助専門家の＜力＞．創元社. ビデオ：グロリアと三人のセラピスト
備　考	

授業科目	地域看護学Ⅰ Advanced Community Health Nursing Ⅰ	責任教員 宮﨑美砂子	単位数 時間数	2 30	必修・選択 受講セメスター	前期	科目等履修生	可

目的	予防的な健康支援活動，地域ケア体制づくり，安心して生活できる豊かな地域づくりにかかわる看護の方法および研究方法について論述する．
到達目標	1．予防的な健康支援に関わる看護活動の特質について論述すると共に，看護活動をより有効に機能させるために検討が必要な課題並びにその課題を追究する方法について論述することができる． 2．地域におけるケア体制づくりに関わる看護活動の特質について論述すると共に，看護活動をより有効に機能させるために検討が必要な課題並びにその課題を追究する方法について論述することができる． 3．地域づくりに関わる看護活動の特質について論述すると共に，看護活動をより有効に機能させるために検討が必要な課題並びにその課題を追究する方法について論述することができる．

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1～6回	健康づくりと看護	1）わが国の健康づくり対策における看護固有の接近方法について検討する． 2）予防的な健康支援に関わる看護活動を研究事象としている論文を取り上げ，研究方法の特質・研究成果・今後の研究課題について討論を行う．	宮崎 佐藤(紀)
7～10回	地域ケア体制づくりと看護	1）地域ケア体制づくりにおける看護固有の接近方法について検討する． 2）地域ケア体制づくりに関わる看護活動を研究事象としている論文を取り上げ，看護固有の視点からの接近方法について，研究方法の特質・研究成果・今後の研究課題について討論を行う．	
11～15回	地域づくりと看護	1）地域社会における人間に対する偏見，差別の問題に対する看護固有の接近方法について検討する．問題の素材となる事象は，感染症への罹患（結核，ハンセン氏病，エイズ等），障害（精神障害，心身障害等），高齢者問題等である． 2）安心して生活できる豊かな地域づくりにおける看護固有の接近方法について検討する．地域の人々同士の助け合いや支え合いを促す看護活動を研究事象としている研究方法の特質・研究成果・今後の研究課題について討論を行う．	

成績評価基準	授業への主体的参加を重視し，出席状況，討論素材の準備，討論への参加，レポートの成果を総合して評価する．
教科書参考書等	随時提示する．
備考	本科目は，地域看護学Ⅱと連動している．したがって地域看護学ⅠとⅡを併せて履修することが望ましい．討論素材として重要な文献等は提示する．しかし，自分で関連文献を調べたり，関連事象を調べたりして，各自が討論素材を充実させる創意工夫を可能な限り行い，授業に臨むことを期待する．

授業科目	地域看護学Ⅱ Advanced Community Health Nursing Ⅱ	責任教員	単位数	2	必修・選択		科目等履修生	可
		宮﨑美砂子	時間数	30	受講セメスター	前期		

目的	看護サービスをヘルスケアシステムの中に有効に機能させる方法を追究するための研究方法について論述する.
到達目標	1．行政サービスとして機能する看護活動の特質について論述すると共に，看護活動をより有効に機能させるために検討が必要な課題並びにその課題を追究する方法について論述することができる 2．地域において生活を営む人々の必要としている看護サービスを創造・開発し，それをヘルスケアシステムの中に有効に機能させるための方法論及び基本概念について論述することができる.

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1～6回	行政サービスとして機能する看護活動	わが国のヘルスケアシステムの中で，行政サービスとして機能する看護活動の特質を検討する．その特質を明らかにするために用いられている研究方法の特質・研究成果・今後の研究課題について討論を行う.	宮﨑 佐藤(紀)
7～15回	地域生活を営む人々のニーズに対応した看護サービスの創造・開発	地域生活を営む人々のニーズに対応した看護サービスを創造・開発し，それをヘルスケアシステムの中に有効に機能させるための方法論及び基本概念について，先行研究に基いて検討し，討論を行う.	

成績評価基準	授業への主体的参加を重視し，出席状況，討論素材の準備，討論への参加，レポートの成果を総合して評価する.
教科書参考書等	随時提示する
備考	本科目は，地域看護学Ⅰと連動している．したがって地域看護学ⅠとⅡを併せて履修することが望ましい．討論素材として重要な文献等は提示する．しかし，自分で関連文献を調べたり，関連事象を調べたりして，各自が討論素材を充実させる創意工夫を可能な限り行い，授業に臨むことを期待する.

授業科目	訪問看護学Ⅰ Advanced Visiting Nursing Ⅰ	責任教員 石垣　和子	単位数 時間数	2 30	必修・選択 受講セメスター	前期	科目等履修生	可

目　的	訪問看護師による援助のうち，在宅療養者の自立を促進するための看護実践のあり方と現状における課題を，訪問看護制度・在宅ケアシステムとの関わりにおいて学習する．
到達目標	1）わが国における訪問看護制度下のリハビリテーションの現状と課題を理解する 2）在宅療養者及び家族の生活に即したリハビリテーションのための訪問看護を計画・実施できる 3）海外における在宅リハビリテーションの状況を理解する 4）高齢者の自立生活を促進するための看護援助についての研究を概観できる

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1回	オリエンテーション	1）この授業科目の目的・進め方 2）各自の課題設定	石垣
2～3回	わが国における訪問看護制度下のリハビリテーション	1）現行制度におけるリハビリテーションの実態を把握する 2）在宅リハビリテーションに関連する在宅ケアシステム・職種間の役割分担を理解する 3）現行制度における課題を理解する 4）今後のための改善の方向性を検討する	
4～11回	生活に即したリハビリテーション看護の実践	1）生活自立度のアセスメント（身体的アセスメント・心理社会的アセスメント・機能アセスメント） 2）リハビリテーション看護の実際（身体リハ・呼吸リハ・心臓リハ・認知リハなどの各領域に関して） 3）典型事例別の計画立案・評価方法の検討	
12～13回	海外における在宅リハビリテーションの現状	1）諸外国の在宅リハビリテーションの状況を把握する 2）日本に活用できることを検討する	
14～15回	高齢者の自立生活を促進するための看護援助に関する研究のレビュー	1）在宅リハビリテーションに関する実証研究をいくつかレビューし，研究に見られる課題を考察する 2）高齢者の自立に関わる要因・自立促進のための介入に関する実証研究をいくつかレビューし，研究に見られる課題を考察する	

成績評価基準	授業への主体的参加を重視し，出席状況，討論素材の準備，討論への参加，レポートの成果を総合して評価する．
教科書参考書等	随時提示する
備　考	特になし

授業科目	訪問看護学Ⅱ Advanced Visiting Nursing Ⅱ	責任教員 石垣　和子	単位数 時間数	2 30	必修・選択 受講セメスター	後期	科目等履修生	可
目的	老人訪問看護において高齢者に頻発する看護問題を明らかにし，その解決のために必要な知識及び技術を，研究論文等をもとに学習する.							
到達目標	1）わが国における訪問看護制度下の老人訪問看護の現状と課題を理解する 2）老人訪問看護において高齢者に頻発する看護上の問題を列挙することができる 3）2）の問題に関する看護を計画し，実施することができる 4）老人訪問看護の質評価に関する研究を概観できる							

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1回	オリエンテーション	1）この授業科目の目的・進め方 2）各自の課題設定	石垣
2～3回	わが国における訪問看護制度下の老人訪問看護	1）現行制度における老人訪問看護の実態を把握する 2）現行制度における課題を理解する 3）今後のための改善の方向性を検討する	
4～13回	老人訪問看護の実践：高齢者に頻発する問題ごとに看護の方法を学び，技術を習得する	1）失禁・褥創・痴呆・多剤併用など．多問題を抱える高齢者のケア，家族関係上の問題を含む 2）問題別の適切な介入方法を研究論文のレビューも含めて学習し，技術を習得する 3）典型事例別の計画立案・評価方法の検討	
14～15回	老人訪問看護の質評価に関する学習	1）文献を概観し，研究上の課題を考察する	

成績評価基準	授業への主体的参加を重視し，出席状況，討論素材の準備，討論への参加，レポートの成果を総合して評価する.
教科書参考書等	随時提示する
備考	特になし

授業科目	保健学Ⅰ Advanced Health Science Ⅰ	責任教員 北池　正	単位数	2	必修・選択		科目等履修生	可
			時間数	30	受講セメスター	前期		
目的	集団を対象とした健康問題を理解するために，生活環境との関連から検討する方法を学ぶ.							
到達目標	1．環境の健康に対するリスクについて理解する. 2．環境関連疾患について理解する. 3．環境情報の収集法について理解する.							

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1回	オリエンテーション	参考図書の紹介と授業の進め方	北池
2～5回	環境リスクの理解	参考図書を読み，特に環境の化学的要因と物理的要因に関する理解を深める.	
6～9回	環境関連疾患の理解	参考図書を読み，環境関連疾患を整理し，理解を深める.	
10～13回	環境情報の収集法の理解	環境情報の収集について，現状のシステムを理解し，さらに個人に対する曝露情報の収集について検討する.	
14～15回	討論・まとめ		

成績評価基準	レポート内容，討議への参加状況など
教科書参考書等	Barbara Sattler,et al:Environmental Health and Nursing Practice(2003)
備考	

授業科目	保健学Ⅱ Advanced Health Science Ⅱ	責任教員 北池　正	単位数	2	必修・選択		科目等履修生	可
			時間数	30	受講セメスター	後期		
目的	看護情報学に対する理解を深め，基本的な統計処理の手法を実践できる．							
到達目標	1．看護情報学の現状について理解する． 2．文献抄読を行い，その統計処理の内容を理解する． 3．基本的な統計処理を実践する．							

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1回	オリエンテーション	参考図書の紹介と授業の進め方	北池
2～5回	看護情報学の現状の理解	参考図書を読み，国内外の現状に対する理解を深める．	
6～10回	文献抄読	受講者が各自関心のある文献を紹介し，その中で用いられている統計処理について解説を行う．	
11～14回	統計処理の演習	パソコンを利用して，多変量解析の演習を行う．	
15回	まとめ		

成績評価基準	レポート内容，討議への参加状況など
教科書参考書等	Marion J.Ball,et al:Nursing Informatics(2000)
備考	

授業科目	看護学演習（基礎看護学） Seminar in Theoretical Nursing	責任教員 山本　利江	単位数 時間数	8 240	(必修)・選択 受講セメスター	通年	科目等履修生	否

目的	1．研究論文の精読および論文クリティークをとおして，看護学固有の研究方法論について論述する 2．看護基礎教育課程における看護学生の看護観とその表現技術の発展過程を把握することをとおして看護の原基形態を使いこなす
到達目標	1－1　文献で使われている専門用語に着目し，著者の概念枠組みを論理的に理解する 1－2　研究動機から結論に至る論述の，論理的整合性を検討する 1－3　看護学の概念枠組みに基づき研究論文を批判的に吟味する 1－4　看護学研究を成立させる研究方法の普遍的な構成要件を考察し，論述する． 2－1　看護方法の授業に指導者として参加し，実習の観察および看護学生自身の記録から，各学生の看護観とその表現技術の修得段階を示す情報を整理し，基礎資料を作成する 2－2　看護の原基形態に則して，看護学生の看護観とその表現技術の発展過程を説明する

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
目的1に対して 1回目	オリエンテーション	理論看護学の立場から，授業目的・内容・方法について概説する	山本
2～27回	文献検討	1．看護学の基幹概念および研究テーマから研究課題の焦点を絞りこむ方法を学習し，文献を検索する．次いで，自己の目的意識に基づき，検討する必要がある文献を選択して収集し，分析する（外国語文献を最低3件）．従ってキーワーズは，「健康」「看護」「看護課程」および，学生自身の研究課題を表す用語とする 2．文献検討フォーマットを作成し，それに基づきプレゼンテーション資料を作成する 3．資料に基づきプレゼンテーションし，参加者との討議をもつ 4．文献クリティークをとおして，研究方法の構成要件を考察する 5．各文献のプレゼンテーションごとに概要を作成する	河部
28～30回	まとめ	全文献のプレゼンテーションの概要をもとに文献検討を概括する資料を作成して発表し，研究方法について参加者と討議する	
目的2に対して 1～36回	看護学生の学習に主体的に関わり，看護観と表現技術の発展過程を理解する	看護学部3年次生対象の看護方法Ⅲにおいて行なわれる，基礎看護実習の体験をふりかえる授業の準備・実施・評価の一連の教育活動に参加し，看護課程展開の技術の適用状況を把握する方法について学習し，その方法を実際に用いて学生の状況を把握する 看護学部2年次生対象の看護基本技術Ⅰ・Ⅱにおいて行なわれる，看護基本技術を学習する授業の準備・実施・評価の一連の教育活動に参加し，学生の看護観と表現技術の修得段階を把握する方法について学習し，その方法を実際に用いて学生の状況を把握する 基礎看護実習に参加し，学生の看護実践能力の発展過程を把握する	

成績評価基準	毎回の参加状況とレポートにより，総合的に評価する
教科書参考書等	随時紹介する
備考	

授業科目	看護学演習（看護教育学） Advanced Seminar in Nursing （Nursing Education）	責任教員 舟島なをみ	単位数 時間数	8 240	必修・選択 受講セメスター	通年	科目等履修生	可

目的	〔目的１〕:海外文献の講読及びクリティークを通して，概念的枠組み及び研究方法論等，看護教育学研究に関わる知識を習得し，看護教育学発展のための課題について論述する．また，国際学会への参加の基盤となる英語力を習得する． 〔目的２〕:授業の参加観察（参加型）を通して，講義および演習という授業形態における教授＝学習過程の特徴と授業展開に必要な普遍的要素を理解する．
到達目標	〔目的１〕:１．看護学研究に関わる学術用語の正確な理解に基づき，海外の看護学教育研究を選択し，批判的に精読する． ２．選択した看護学教育研究のデザイン，概念的枠組み及び研究方法論等の検討を通して，看護教育学研究を遂行するために必要な知識を習得する． ３．看護学教育研究をクリティークすることを通して，看護教育学発展のための課題を論述する． ４．国際学会への参加の基盤となる英語力を習得する． 〔目的２〕:１．講義及び演習という授業形態への参加観察を通して，授業展開に関する学習内容を述べる． ２．授業設計，準備，実施，評価の過程を参加観察し，授業展開に必要な普遍的要素を理解する． ３．講義及び演習という授業形態における教授＝学習過程の特徴を説明する．

回数（１回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
〔目的１〕 １回	オリエンテーション	・看護教育学教育研究分野における看護学演習の授業目的，内容，方法について説明を受け，その概要を理解する．	舟島 野本
２回	文献検索の方法の理解	・授業目的に基づき，講読文献を検索する方法を習得する．	
３～29回	文献講読および講読文献のプレゼンテーションと討論	・授業の目的に基づき，講読した看護学教育研究に用いられている学術用語，研究方法，研究内容等について学習した内容をプレゼンテーションし，看護学教育研究の概念的枠組みと研究方法論，看護教育学体系発展の視点から討論を展開する．	
30回	講読文献のまとめ	・１年間を通して講読した文献を再検討し，クリティークした内容に関するレポートを作成する．	
〔目的２〕	看護教育Ⅰの参加観察	・学部３年生を対象に開講される「看護教育学」（必修）の授業（講義）を参加観察（参加型）する． ・授業準備，教材の作成等に関わり，授業準備の実際を体験する．	舟島 野本
	看護教育Ⅱの参加観察	・学部３年生を対象に開講される「看護教育学演習（問題解決過程）」（自由）の授業（演習）を参加観察（参加型）する． ・授業準備，教材の準備を行うとともに，授業設計，準備，実施，評価の一連の過程に参加する． ●「看護教育学」「看護教育学演習（問題解決過程）」への参加観察を通して，授業形態の特徴を説明する．	

成績評価基準	目的１：展開したプレゼンテーションおよび討論，コース終了後のレポート 目的２：コース終了後のレポート
教科書参考書等	・杉森みど里・舟島なをみ：看護教育学，第４版，医学書院 ・Polit, D.F.&Beck, C.T.:Nursing Research-Principls and Methods, Seventh ed., Lippincott. ・Diers, D.（小島通代訳）：看護研究－ケアの場で行うための方法論，日本看護協会出版会 ・舟島なをみ：看護教育学研究－発見・創造・証明の過程，医学書院 ・舟島なをみ：質的研究への挑戦，医学書院
備考	

授業科目	看護学演習（機能代謝学） Advanced Seminar in Nursing (Anatophysiology and Biochemistry)	責任教員 山田　重行	単位数	8	(必修)・選択		科目等履修生	可
			時間数	240	受講セメスター	通年		
目的	機能代謝学領域の文献学習をとおして自己の看護実践を評価し，発展させる能力を養う.							
到達目標	看護実践に係る諸問題を機能代謝学的視点から考察し，対応することができるようにする．また，問題解決のための研究活動が自立してできるようにする.							

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1回	オリエンテーション	各自の関心課題を設定する.	山田
2～14回	課題の文献学習と報告および討論	各自の課題に関係する文献を収集し，学習を進める．一つの文献ごとに学習内容を報告し，それについて評価・検討して学習を深める.	
15回	まとめ	全学習内容を整理し発表する.	

成績評価基準	レポートにより評価する.
教科書参考書等	随時紹介する.
備考	

授業科目	看護学演習（母性看護学） Advanced Seminar in Nursing （Maternity Nursing）	責任教員 森　恵美	単位数	8	必修・選択		科目等履修生	否
			時間数	240 ～300	受講セメスター	1年前期 ～2年前期		

目的	母性看護学領域における文献学習や看護実践活動を通して，自己の看護実践を評価し，発展させる能力を養い，臨床において看護専門職者や他の専門職者との関わり等から看護の機能を発揮するための方法を学ぶ．
到達目標	１．各自が関心のある母性看護領域について文献検討を行い，自己の研究領域を明確化することができる． ２．母性看護の対象者に対し受持助産師として継続的に関わり，実施した看護をプロセスシートあるいはフィールドノートに記述・評価し，効果をもたらした看護について，その法則性や構造について分析する能力を育むことができる． 以下はCNS希望学生のみの目標 ３．事例検討と実践の繰り返しにより，看護技術の応用法や卓越した看護実践を自ら創造することを学ぶことができる． ４．実践の場における複雑な問題を明らかにし，その問題の原因や解決のための資源を分析し，看護の立場からの解決方法について考察することができる．

回数（１回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
１回	授業のオリエンテーション CNSを希望しない学生 文献学習，看護実践活動，評価，報告，事例検討 ：８単位，240時間 CNSを希望する学生については以下の２つの学習課題を行う． パート１：周産期母子看護学 ２単位，30時間 パート２：周産期看護実習 ６単位，270時間以上	学習の進め方，文献検討による課題の探求方法，フィールドノートの作成，アクションリサーチなどについて理解し，各自の関心領域を明確にする． 各自が選択した母性看護領域で文献学習や看護活動を行い，それを評価・報告し，スーパーバイズを受けて計画修正，実施を繰り返す． 事例検討会を定期的に開催し，学生が個々の事例について看護活動を報告し，意見交換を行う．看護理論や先行研究からの考察を行ったり，事例にみられる看護としての共通性や看護の法則性，研究的疑問について検討する． 妊婦・産婦・新生児・褥婦に対する質の高い援助方法について，以下のようなテーマで学習する． ①系統的な健康診査とプライマリーケア ②分娩準備教育における効果的な指導方略 ③分娩中のリラクセーションへの援助 ④フリースタイル出産と分娩介助 ⑤異常への逸脱とその対処方法 ⑥新生児仮死への対応（蘇生も含む） ⑦新生児の哺乳行動に応じた母乳哺育確立のための援助 ⑧母親役割獲得過程への援助 これまでの学習結果を統合し，自己の研究課題をもって，周産期における対象（ローリスクからハイリスク妊娠まで）を受持制で５事例以上継続的にかかわる．また，周産期に生じた特別かつ複雑なニーズを持つ母子及び家族に対する看護実践を担当し，随時スーパーバイズを受けながら，他者との調整・連携・協働を含む実践活動を展開する．その活動を展開する中で，看護の創造・改革・改善のための研究課題を明確化し，それを実践するための方略を体験的に学ぶ．	森 石井

成績評価基準	授業への出席態度，文献検討レポート，事例検討レポートを総合して評価する．
教科書参考書等	その都度紹介する
備考	CNS（母性看護）資格を取得希望者は，母性看護学Ⅰ，母性看護学Ⅱ，看護学演習（母性看護学）を受講し，以下の方法により特別研究を行う． １．特別研究（母性看護研究演習Ａ）：６単位　１年次後期 周産期母子看護場面，助産診断場面，産科緊急時の処置場面等をビデオ等によって再現し，モデリング学習をしたり，看護援助の卓越性について討議したり，参加観察法等データ収集方法の訓練をしたりする．看護理論や事例研究から効果的な看護援助について学習する．周産期の業務管理や母子保健政策に関する資料を分析・討議し，それらから専門看護師としての役割や機能を活かす具体的方略を学ぶ．これらの方略を理論と対照させ，実習で発揮できるように系統的に理解し，自己の研究課題に基づきレポートにまとめる． ２．特別研究（母性看護研究演習Ｂ）：６単位　２年次後期 看護学演習（母性看護学）のパート２：周産期看護実習を通して，明確にした研究課題についてアクションリサーチを実施し，論文作成，発表をする．

授業科目	看護学演習（小児看護学） Advanced Seminar in Nursing （Child Nursing）	責任教員 中村　伸枝	単位数 時間数	8 240 ～360	(必修)・選択 受講セメスター		科目等履修生	否
目的	・小児看護領域の特徴を踏まえ，患児および家族への看護実践・評価を実施し，高度専門的看護実践の基盤を強化する．							
到達目標	・看護上の問題の大きい小児や家族に継続的にかかわりをもち，包括的にアセスメントし，高度な専門的技術を用いた看護実践が展開できる ・看護援助の過程を振り返り，援助の効果を多面的に分析・評価できる							

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
	①小児病棟における遊びのプログラムの運営を行う（2単位） CNSを希望する学生 90時間以上 CNSを希望しない学生 60時間以上 ②病棟や外来において，患児及び家族に対する看護援助を実践する（6単位） CNSを希望する学生 270時間以上 CNSを希望しない学生 180時間以上	・小児病棟に入院中の小児と家族に対し，集団遊びを企画，運営する． ・小児病棟における遊びのプログラムの評価を行う． ＊CNS（小児看護）を希望する者は，入院環境や遊びが小児に及ぼす影響，疾患や状態について考慮し，小児病棟に入院中の小児と家族に対して集団遊びを企画，運営し，レポートを提出する． ・個々の関心領域において，看護上の問題の大きい患児および家族3事例以上と継続的なかかわりをもち，看護援助を実践する． ・事例については，患児の病状に関する病態生理学的把握と分析，および患児に適用される治療方法の把握とそれに伴う問題の分析を行い，適切なケアを実施し評価する． ・扱う事例は，入院，退院後の外来あるいは在宅におけるケアといった一連の過程について，継続的なかかわりがもてるように計画する． ・看護実践にあたっては，指導教員の指導計画のもとに，指導教員ならびに実習施設の指導者により指導を受けながら行うものとする．看護実践活動として，看護活動の計画・評価，スタッフへの教育・相談，他部門・他施設との調整を含む． ・実施した看護をフィールドノートに記述し，症例の分析，評価を行う． ・看護援助を実践する中で，看護技術を洗練し，コミュニケーション技術，コンサルテーション方法，他領域との調整方法等について学ぶ． ・看護援助の経過についてプレゼンテーションし，討論を通して理解を深める．また，看護援助経過を実践機能．コンサルテーション・教育機能・調整機能に焦点をあてて分析・考察し，最終レポートを提出する．	中村 荒木

成績評価基準	演習実施状況，プレゼンテーション及び最終レポートにより評価を行う．
教科書参考書等	Harmic,AB., Spross,JA., and Hanson,CM.:Advanced Nursing Practice An Integrative Approach, W.B.Saunders, 2000
備考	CNS（小児看護）を希望する者は，小児看護学Ⅰ，小児看護学Ⅱ，看護学演習（小児看護学）を受講し，以下の方法により特別研究を行う． 1．特別研究（小児看護学）パート1（4単位）1年次　①－1，①－2，②から4単位以上を実施する ①－1慢性疾患をもつ子どものキャンプ，①－2慢性疾患をもつ子どもと家族のキャンプ（各2単位） 慢性的な健康問題をもつ小児とその家族のキャンプの企画・運営・実施・評価にかかわることで，看護実践能力の習得，小児や家族・スタッフへの教育，他職種との連携や調整などの能力を修得する．また，慢性的な健康問題をもつ小児や家族とキャンプを通してかかわることで，対象者理解を深めるとともに，研究の前提となるコミュニケーション能力や実践能力を育成する． ②Nurse Exchange Program in UCLA（2単位） University of California at Los Angels Medical Centerで行われているNurse Exchange Program（10日間）に参加し，米国における最新の小児医療・看護の中で活動する小児専門看護師ほか小児の看護専門職の活動の実際を通して専門看護師の役割・機能を学ぶ． 2．特別研究（小児看護学）パート2（8単位）2年次 研究課題に沿って，最新の治療方法とそれに伴う短期・長期的な問題を把握し，看護援助を実践する際に考慮すべき倫理や子どもの権利に関する問題，必要な社会資源や法，制度の適用などを含む背景について文献レビューを行う．看護学演習（小児看護学）で，明確化した事例に共通する問題や臨床上の問題について，適切な研究方法を選択し，研究を行い論文を作成する．

授業科目	看護学演習（成人看護学） Advanced Seminar in Nursing （Adult Nursing）	責任教員 眞嶋　朋子	単位数	8	必修・選択		科目等履修生	否
			時間数	240	受講セメスター	通年		

目的	成人・老人患者及び家族を対象としたがん看護学及びクリニティカルケアに関する研究課題の中から自らの研究課題を設定し，文献検討ならびにフィールドワークを通して，研究課題ならびに研究方法を理論的・実践的視点から追及する．
到達目標	1．成人・老人患者及び家族を対象としたがん看護学及びクリニティカルケアに関する研究課題の中から自らの研究課題を設定できる． 2．自らの研究課題に関して文献検討を行い，研究の理論的枠組みと研究方法を明確にすることができる． 3．自らの研究課題に関してフィールドワークを行い，実践的視点から研究課題ならびに研究方法を明確にすることができる．

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1～15回	1．成人・老人を対象としたがん看護およびクリティカルケアの領域における研究課題を概観し，研究事象とすべき課題について明確にする． 2．追究する研究課題を定め，文献検討を行って，研究の理論的枠組みと研究方法を明確にする． 3．研究課題についてフィールドワークを行い，実践的視点からの研究課題の追究のプロセスとその成果を検討する．	1．成人・老人を対象としたがん看護領域，またはクリティカルケア領域のいずれかを選択し，自己の追究すべき研究課題を明確にするために，広く文献検索を行い，課題の文献的および経験的検討を十分に行う． 2．がん看護領域またはクリティカルケア領域から設定した研究課題について，課題解決のための理論的枠組みと研究方法を検討するために，国内・外の研究論文の分析的解読を行う． 3．研究課題の現実性を明確にするための適切なフィールドを設定し，フィールドワークを実施する．がん看護領域を選択した者は，がん専門施設をフィールドとし，がん看護の高度な実践能力，カウンセリング能力，他職種との連携・調整能力の開発を目的とした演習を行う（専門家と行動を共にする）． 4．研究課題に対する自己の見解および課題追究の過程や成果を発表し，研究討議を行う．含まれる倫理的な問題について検討する．方法は，ゼミとフィールドワークによる．	眞嶋 佐藤(ま)

成績評価基準	参加状況およびレポート（特別研究において関心領域の高度な実践とそれに関わる研究の推進が可能かどうかの観点からの評価も同時に行う．）
教科書参考書等	
備考	がん看護専門看護師認定試験受験を希望する者は，成人看護学Ⅰ，成人看護学Ⅱ，看護学演習（がん看護学領域選択）にひきつづき，以下の方法により特別研究を行う． 1．特別研究（がん看護領域選択）パート1（6単位）（1年次後期後半） がん専門施設において，自己の研究課題にそってがん患者を受け持ち，看護職者として患者・家族への看護を実践する．事例は5事例以上とする．事例については，がん患者の病状に関する病態生理学的把握と分析，および患者に適用される癌治療の方法の把握と治療にともなう問題の分析を行い，適切なケアについて実施し，評価する． 扱う事例は，原則的にがん患者の外来受診から，入院，通院後の在宅ケアといった一連の過程について継続的なかかわりが持てるように計画する． 看護実践にあたっては，指導教員の指導計画のもとに，指導教員並びに施設の専門看護職者により指導を受けながら行うものとする．看護実践活動として，看護活動の計画・評価，スタッフへの教育・相談，他部門・他施設との調整を含むこととする． 2．特別研究（がん看護領域）パート2（6単位）（2年次） パート1にひきつづき，立案した研究計画にそって実施し，論文を作成する．

授業科目	看護学演習（老人看護学） Advanced Seminar in Nursing （Gerontological Nursing）	責任教員 正木　治恵	単位数 時間数	8 240	(必修)・選択 受講セメスター	通年	科目等履修生	否

目　的	看護実践活動ならびに看護管理活動に関連した課題を設定し，文献的検討による考察を深めるとともに，看護実践およびその評価を通して高度専門的看護実践の基盤を強化する． また，特別研究を行うための実践能力の研鑽と，研究課題の焦点化，ならびに研究方法の実践の場への適用に関する検討を行う．
到達目標	１．老人看護ならびに慢性病看護における高度専門的看護実践の基盤を強化する． ２．特別研究を行うための実践能力の研鑽を行い，研究課題の焦点化を図る．

回数（１回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
（４単位） （４単位）	Ａ．老人看護に関する課題学習 １．老人の健康生活アセスメントと老人への看護活動 ２．様々な場における看護活動の実際とその評価	方法： 関心領域により学生自身が学生課題ＡまたはＢを選択する． 学習課題にそって，文献学習，小規模実地調査，看護実践の振り返りを行い，グループディスカッションを通して理解を深め，実践的課題を明確にしていく． 学習内容： １．老人ケア施設または在宅の老人に対して健康生活をアセスメントし，援助計画をたてて援助を展開する． その援助過程を振り返り，自己評価すると共に，グループディスカッションにより検討する． ２．①老人ケアの場である病棟・施設・家庭に赴き，老人看護の現状と問題点を明確にし，理論に照らしてその改善方法を検討する． ②老人病院，老人ケア施設，訪問看護ステーションにおいて看護活動の運営，職員教育（集団教育と個別指導）について現状を把握し，理論に照らしてその改善を検討する．	正木 谷本
（４単位） （４単位）	Ｂ．慢性病をもつ患者への看護に関する課題研究 １．看護活動の理論および実践・評価 ２．様々な場における看護活動の実際とその評価	学習内容： １．糖尿病，慢性呼吸不全，慢性腎不全，神経難病，膠原病等，学生の関心領域の慢性病をもつ患者に，看護者として継続的にかかわり援助を展開する． 指導教員の指導のもとに，その援助過程を振り返り高度専門的看護実践の基盤を強化する． 援助過程を通して，慢性病者の療養行動，慢性病の身体的・心理社会的影響に関する理論と実際を確かめる． ２．慢性病者を看護する病棟・外来・地域など様々な場に赴き，慢性病者を支援していくシステムについて現状での問題点を明確にし，解決方法を検討する． また，患者会活動に参加し，慢性病者を取り巻く社会環境について考える．	

成績評価基準	参加状況ならびにレポートにより評価する．（特別研究において関心領域の高度な実践とそれに関わる研究の推進が可能かどうかの観点から評価する．）
備　考	老人看護専門看護師認定試験受験を希望する者は老人看護学Ⅰ，老人看護学Ⅱ－Ａ，看護学演習（老人看護学）－Ａにひきつづき，以下の方法により特別研究を行う． １．特別研究（老人看護学）パート１（６単位）（１年次後期後半） １）下記，①②に示された両方の施設において看護者として老人（家族を含む）にかかわり，看護を実践し，様々な事例（３事例以上，痴呆症老人の事例を含む）に対する援助を検討する． 看護実践にあたっては，学習指導計画をもとに，指導教員ならびに施設側指導者により指導を受けながら行う．学習指導計画は学生とともにたてる．実践の内容は，研究的視点をもって課題や事象の検討，援助過程の検討，援助方法の改善案の計画，実施，評価を含む．実施後に検討結果ならびに自己評価をレポートする． ２）下記，①②に示された両方の施設において，看護管理者とともに，看護管理実践を行い，自己の実践について検討しレポートする．看護管理実践の内容は，看護活動の計画・評価，スタッフへの教育・相談，家族への援助，他部門や他施設との調整を含む．また，看護管理および施設経営の立場から現状を分析し，看護の課題としてとらえたことをレポートする． ・実践を行う施設　①指定介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）裕和園，介護老人保健施設サンビューちば，誉田訪問看護ステーション，②青梅慶友病院 ２．特別研究（老人看護学）パート２（６単位）（２年次） パート１に引き続き，立案した研究計画にそって実施し，論文を作成する．

授業科目	精神看護学演習 Advanced Seminar in Psychiatric and Mental Health Nursing	責任教員 岩﨑　弥生	単位数 時間数	8 240	(必修)・選択 受講セメスター	通年	科目等履修生	否

目　的	精神看護領域における方法論や理論を基盤として，精神看護を必要としている個人，家族，グループに対する理解を深め，精神看護の実践・評価能力を強化する．また看護実践を通して精神看護領域における課題を発見し，精神看護の向上と発展にどのように貢献できるかを検討する．
目　標	1）個人，家族，小グループを対象とした精神看護学領域の理論と方法論をもとに，精神看護を必要としている患者とその家族に継続的にかかわり精神的健康状態を査定し，看護を計画，実施，評価する． 2）小グループを対象としたプログラムを開発，運営，評価する． 3）精神看護領域における課題を発見し，課題へのアプローチ方法を計画する．

回　数 （1回90分）	学　習　課　題	学　習　内　容　並　び　に　方　法	担　当 教　員
	個人及び家族を対象とした看護 精神保健福祉法 精神障害者の人権 精神障害者のQOL 精神的健康状態の査定方法 生活状況の査定方法 家族力量の査定方法 個人面接の技術 家族面接の技術 関連機関との連携・調整方法 教育・相談の方法	地域の精神保健福祉施設において，あるいは対象の家庭において看護者として継続的にかかわり，自らの看護に理論的・方法論的検討を加える． 精神的健康状態の査定 生活状況の査定 家族力量の査定方法 地域資源のマッピング 個人及び家族を対象とした看護の計画，実践，評価 関連機関との連携・調整 教育・相談の計画，実施，評価	岩﨑 石川
	小グループを対象とした看護 グループ力動 グループの運営方法 グループの査定方法 グループの開発方法 グループの評価方法	地域の精神保健福祉施設において小グループを対象としたプログラムを開発，運営し，プログラムに理論的・方法論的検討を加える． グループの査定 プログラムの計画 プログラムの実施 プログラムの評価	
	精神看護領域における課題の発見	個人，家族，小グループを対象とした看護経験を元に精神科看護領域の課題を発見し，文献検索，関係者への聞き取り，資料収集等を通して課題へのアプローチ方法を計画する． 課題発見 課題へのアプローチ方法の計画	

成績評価基準	フィールドノート及び事例報告
教科書 参考書 等	ビデオ：シュミレーションによる精神科患者インタビュー ビデオ：回想法 鈴木浩二他訳（1994）家族療法と家族療法家：マスターセラピストによる治療全過程の事例研究．金剛出版. Yalom, ID (1985) The theory and practice of group psychotherapy. Basics Books.
備　考	

授業科目	看護学演習（地域看護学） Advanced Seminar in Nursing （Community Health Nursing）	責任教員 宮﨑美砂子	単位数	8	(必修)・選択		科目等履修生	否
			時間数	240	受講セメスター	通年		

目的	地域看護学にかかわる看護事象の特質について理解を深め，研究事象とすべき課題，研究方法の特質を次の２つの素材から明確にする． １．わが国及び諸外国における地域看護学の研究課題 ２．学士課程における地域看護学教育の内容と方法
到達目標	１．地域看護学の研究事象の特質及び研究方法の特質について実地に調べ，討論の素材を作成すると共に，討論の実施，討論の成果の集約を行うことができる． ２．学士課程における地域看護学教育の内容と方法の理解をとおし，地域看護学における看護事象の特質についての考察を深めることができる．

（単位数）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
	オリエンテーション	学習の進め方，学習課題の提示．	宮﨑 佐藤(紀)
	１．地域看護学の立場から追究すべき研究課題，あるいは追究されている研究課題の実際から，研究事象の特質及び研究方法の特質を理解する．	わが国及び諸外国における地域看護学の研究課題を以下の２つの視点から取り上げる．	
（３単位）	１）わが国において追究すべき研究課題	１）わが国において，現在，地域看護学の立ち場から追究すべき課題を複数設定し，事象の実態把握と，看護専門職固有の機能や役割を明確にするための討議の場を設定する．受講者は担当課題をあらかじめ選定し①文献検討②関係者からの聴取等の方法により，課題の実態及び看護専門職の役割について報告を行い，意見交換を行う．	
（３単位）	２）諸外国で取り上げている研究課題	２）地域における看護事象を研究課題に取り上げている主に米国を中心とした諸外国の博士論文を読んで内容を報告する．研究事象や研究方法の特徴，研究成果について意見交換を行う．	
（２単位）	２．学士課程の学生に対し，地域看護学にかかわる看護事象の特質を教授するための教育の一部を実地に行い，教育内容・方法を理解する．	本学部看護学科学生に対して行う，授業計画立案，授業実施，授業評価の一部に関わり，教育内容及び教育指導方法を明確にするための意見交換を行う．教育活動を通して，地域看護学にかかわる看護事象の特質について理解を深めることができた内容を考察する．	

成績評価基準	授業への主体的参加を重視する．準備活動への参画状況，出席状況，各段階にて求めるレポートの成果を総合して評価する．
教科書参考書等	随時提示する．
備考	

授業科目	看護学演習（訪問看護学） Advanced Seminar in Nurcing (Visiting Nursing)	責任教員 石垣　和子	単位数 時間数	8 240	(必修)・選択 受講セメスター	通年	科目等履修生	否
目的	文献学習や訪問看護実践活動を通じて高度訪問看護実践の基盤を強化する. 特別研究を行うための研究課題の焦点化，ならびに実践の場への研究方法適用に関する検討を行う.							
到達目標	1．論文読解能力を高め，多様な研究方法を理解する. 2．訪問看護における高度専門的看護実践の基盤を強化する. 3．特別研究の課題の焦点化を行う.							

単位数	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
4単位	1．高度訪問看護実践への理解を深め，学習領域を定める.	各自の経験事例を含めた訪問看護師事例検討会での学習によって，高度訪問看護実践に必要な能力についての知識を獲得する.	石垣 山本 本田
4単位	2．高度訪問看護実践の基盤を強化する.	訪問看護ステーション，居宅介護支援事業所，医療機関在宅部門などでの実践的な演習を通じて，利用者・家族のアセスメント，在宅看護計画，他職種とのチームワーク等の能力を高める.	石垣 山本 本田
4単位	3．論文読解能力を高め，多様な研究方法を理解する.	欧文論文の文献学習にて研究計画作成の方法，質的・量的・実験的な研究方法の基礎的理解と応用力を身に着ける．訪問看護に関する研究の現状を知る.	石垣 山本
4単位	4．特別研究の課題の焦点化.	文献検討や事例検討を通じて特別研究の課題を定め，研究計画を立てる.	石垣 山本

成績評価基準	参加状況とレポート
教科書参考書等	
備考	CNS（在宅看護）を希望するものは，本演習の学習課題1．及び2．を必修とする. さらに，特別研究の一部として訪問看護ステーションにて利用者を受け持ち，利用者・家族への看護実践を行う．利用者として，高齢者，終末期患者，リハビリテーションの必要なもの，痴呆性高齢者のうちから2種類の利用者を，さらに難病患者，精神障害者，心身障害児・者のいずれかの利用者を受け持つ.

授業科目	看護学演習（保健学） Advanced Seminar in Nursing （Health Science）	責任教員 北池　正	単位数	8	(必修)・選択		科目等履修生	否
			時間数	240	受講セメスター	通年		
目的	集団を対象とした健康問題を解明するために，疫学的アプローチ法を修得する．							
到達目標	1．疫学研究の原理と方法を修得する． 2．情報収集方法と統計分析方法を修得する． 3．疫学的方法による研究の実践を行う．							

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
	疫学的方法の修得	疫学研究の原理と方法について理解する．疫学の成書を精読する．	北池
	情報収集方法の修得	情報収集方法について理解する． 環境情報，生態情報，生活情報の把握方法を演習する．	
	統計分析方法の修得	統計分析方法について理解する． 統計学の成書を精読する．	
	文献のクリティカルリーディング法の修得	特別研究に向けて，関心のある領域の外国文献，国内文献のクリティカルリーディングを行い，疫学研究の理解を深める．	
	疫学研究の演習	卒業研究に指導的に参加し疫学研究を修得する．さらに特別研究に向けて，関心のある領域の疫学研究を実践する．	

成績評価基準	参加状況およびレポート内容
教科書参考書等	随時紹介する．
備考	

授業科目	看護管理学 Advanced Nursing Administration	責任教員 手島　　恵	単位数	2	必修・(選択)		科目等履修生	可
			時間数	30	受講セメスター	前期		

目的	看護サービスをより効率的・効果的に行うための看護管理にかかわる理論を学ぶとともに，その理論を，患者・家族，看護職員および医療関係職，さらに福祉など関連する他領域の人々と協働していく上で活用できるよう，現場の実務の改善に資する方策を考究する.
到達目標	1．歴史的背景をふまえ管理方略の変遷について述べることができる. 2．患者満足の視点から，医療サービスとその管理について概説できる. 3．組織におけるリーダーシップの役割と責任について説明できる. 4．看護サービスにおける人材開発の方略について説明できる. 5．看護管理上の課題を理解する.

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
	オリエンテーション	授業科目の目的ならびに目標について説明する.	手島
	看護管理のパラダイムシフト	医療をとりまく変化の中で，看護管理の考え方がどのように変化したかを論じる.	
	組織管理　リーダーシップ	組織管理ならびにリーダーシップにかかわる理論を概説し，看護管理への適用を論じる.	
	患者満足と看護の質	サービス論について概説し，看護の質を維持・向上させていくための方略を検討する.	
	リスクマネジメント	リスクマネジメントにかかわる概念を概説し，医療における危機管理の方略を論じる.	
	ストレス管理	看護職者のストレスについて概説し，ストレス管理について論じる.	
	看護管理と倫理	看護管理に関連する倫理的諸問題について論じるとともに，対応策について討議する.	
	看護職のキャリア・デベロップメント	看護専門職としての展望を検討し，キャリア開発について論じる.	
	マーケティング	医療システムにおける，看護サービスの市場を明らかにするとともに，サービスを適切に提供していくためのシステムについて討議する.	

成績評価基準	授業への積極的参加，発表（内容・方法・態度），課題
教科書参考書等	各回毎に提示する
備考	

授業科目	看護実践方法論Ⅰ Competency for Advanced Nursing Practice Ⅰ	責任教員 正木　治恵	単位数 時間数	2 30	必修・(選択) 受講セメスター		科目等履修生	可

目　的	1．看護実践における看護理論の活用とその効果について理解し，活用の方法を演習する． 2．看護実践の場における看護職へのコンサルテーションの効果について理解し，その方法を演習する．
到達目標	1．各種看護理論の特徴を理解し，自己の実践事例に適用して，考察できる． 2．看護実践の場におけるコンサルテーションについて学習し，必要な基本技術を習得する．

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1～2回	1－1） 看護理論ならびにその活用の効果を理解する	看護理論の意義，発展の歴史，実践における活用ならびに検証について理解する． （講義）	正木 山本 酒井 黒田 荻野
3～5回	1－2） 看護理論の活用の方法を理解する	看護理論を使って自己の看護実践を振り返り，説明，評価する． （グループワーク）	
6～8回	1－3） 各種看護理論の特徴，実践との関係を理解する	看護理論を実践に活用する上での意義と課題について討議する． （グループワーク，発表，まとめ）	
9～10回	2－1） ケア提供者に対するコンサルテーションの必要性とその効果について理解する	コンサルテーションの定義，構造，過程，コンサルタントに必要な能力を理解する． （講義）	
11～13回	2－2） 間接支援であるコンサルテーションの基本技術を理解する	対人関係の間で生じるダイナミクスを理解する． 精神状態のアセスメントを実践する． 様々な面接方法を一通り体験し自分に適した面接方法を考える． （グループワーク・ロールプレイングなど）	
14～15回	2－3） コンサルテーションにおける自己評価方法を理解する	事前課題事例についてのコンサルテーションを行い，コンサルテーションプロセスを体験する． コンサルテーションを行うための今後の自己の課題を見つける．	

成績評価基準	参加状況ならびにレポートにより評価する．
教科書参考書等	事前に提示する．
備　考	専門看護師認定試験受験を希望する者は履修すること． 講義，演習は夏期休業中に集中で行う．また事前に下記の課題をまとめておくこと． ①事前に提示する基礎的文献を読みまとめておく．（別紙） ②事前に自己の看護事例をまとめておく．（別紙）

授業科目	看護実践方法論Ⅱ Competency for dvanced Nursing Practice Ⅱ	責任教員 森　恵美	単位数	2	必修・(選択)		科目等履修生	可
			時間数	30	受講セメスター	前期・集中		

目的	1．看護政策の歴史と現状を概観し検討する. 2．看護実践における人権擁護と倫理的ジレンマについて論じ，その問題解決の方法について検討する.
到達目標	1．看護政策と政策決定のプロセスを理解できる. 2．看護人材確保育成計画の概要と課題及びその対策について理解できる. 3．現状における看護政策上の課題を明確にし，課題解決のための提言を述べることができる. 4．看護実践における看護倫理の視点と倫理的ジレンマについて説明できる. 5．看護実践における人権尊重と擁護のあり方について説明できる. 6．看護実践における倫理的ジレンマを解決する方法について説明できる.

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1回	1－1） 看護人材育成計画の課題について理解する.	講義 看護人材育成計画とその課題について	森 大室 眞嶋 黒田
2～5回	1－2） 看護政策の歴史について理解する	講義 看護政策の歴史的変遷について	
6～8回	1－3） 看護政策の歴史的概観をふまえて現状の課題を検討する.	演習	
9～10回	2－1） 看護実践における看護倫理の視点と倫理的ジレンマについて理解する.	講義 看護実践における看護倫理の視点と倫理的課題について	森 眞嶋 手島 黒田
11～14回	2－2） 看護実践における人権擁護と倫理的ジレンマについて検討する.	グループワーク	
15回	2－3） 看護実践における倫理的ジレンマを解決する方法について検討する.	グループワーク	

成績評価基準	参加状況ならびにレポートにより評価する.
教科書参考書等	事前に提示する.
備考	専門看護師認定試験受験を希望する者は履修すること. 講義，演習は夏期休業中に集中で行う．ただし，事前に下記の課題をまとめておくこと. ①事前に提示する基礎的文献を読みまとめておく. ②事前に経験した看護事例をまとめておく.